

教育振興基本計画：「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」
 かわさき教育プラン：一人ひとりが輝き、共に未来をつくる

学校教育目標

考はてな	自分から考えて進んで学習する子	優いっしょにね	助け合い協力する子
考すばらしいな	美しいものや生きものを大切にできる子	しがんばるぞ	いつも元気で明るい子
しまけないぞ	責任をもってやりぬく子		

期待する教師像

◎教育公務員としての自覚をもち自己の役割の中で子どもたちの健やかな成長のために能力を発揮する。◎広く研修の機会を求め研鑽する。
 ◎学校運営に携わる一員として協働的な姿勢をもち。◎時代の変化に対応する柔軟性をもち自己の資質・能力を磨く。

育成をめざす資質・能力

多様な人々と協働しながら主体的に学びに向かい、自己の感情や行動を統制し、よりよい生活や人間関係を自律的に形成する態度	自ら課題を見出し、未知の状況においても既習の知識や技能を活用して、深く考えたり、話し合ったり、進んで表現したりする力	様々な学習や生活の場面で活用できる基礎的・基本的な知識や概念及び技能
--	--	------------------------------------

本年度の重点課題

夢に向かって学ぶ学校～自己肯定感を土台とした主体的・探究的・利他的な子の育成～

本年度の努力点と具体的な取組

<p>学び合う学校～考える子～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて「探究的に学ぶ」授業改善を図り、「わかった」「できた」を実感できる授業を目指す。 ○地域や学校の特色、児童の実態を生かした体験活動を位置付け、「社会に開かれた教育課程」を編成する。 ○基本的・効果的な指導や指導方法を共通理解し、徹底することを通して、基礎・基本の定着を図る。 ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 	<p>確かな学力を育む授業づくり・カリキュラムづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> □校内研究を中心に「深い学び」の実現を目指し、「主体性を連続させる工夫」「考えを深めたり、広げたりするための表現活動」「知識や技能の活用を実感する」「見直し、振り返る活動」を位置付けた授業づくりに取り組み、授業力の向上に努める。 □授業改善部を中心に校内研究の日常化を図り、各自のテーマをもとにチーム等での授業の質の向上を目指す。 □地域の材や社会の変化に対応した単元づくりを生活科、総合的な学習の時間を中心に行い、各教科等との関連を図った横断的なカリキュラム・マネジメントに取り組み、探究的な学びの充実を図る。 □ステップ2・3の実現を目指しギガ端末の効果的な活用（情報モラルを含む）を生かした授業改善を図る。 □モジュールの活用や教育ボランティアの配置を図り、学年に応じた基礎的な知識・技能の定着を徹底し、きめ細やかな指導を通じた確かな学力を育成する。 □学習習慣の確立と授業のユニバーサルデザインの共通理解を図り、分かりやすい授業づくりに取り組み。 □児童の多様な状況に応じた合理的配慮を工夫し、関わり合いの中で協働的に学ぶ授業を目指す。
<p>元気あふれる学校～しなやかな子～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○規律ある学年、学級経営のもとで、規範意識と自己肯定感を土台とした自己有用感、自己効力感の醸成を図る。 ○特別活動を中心として子どもたちの創意を生かした自主的・自治的な活動を保障する。 ○心と体の健康や安全への意識を高めるために命の教育・健康・安全・防災教育の推進を図る。 ○児童の多様な状況を生かした集団づくりに努める。 	<p>なりたい自分・在りたい自分が実現する学校・学級づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> □「違いを認め合い、みんなと共に生きていく力」「よりよい集団や社会をつくらうとする力」「なりたい自分に向けてがんばる力」を育成し、一人一人の居心地のよい学級づくりの充実に努める。 □学級目標の実現を目指して学級会、学級活動の内容を質的に高め、自発的・自治的で自浄力のある学級をつくる。また、その一員として「必要とされる」「役に立っている」ことを実感し、自己有用感、自己効力感を高める。 □児童の創意、発意に基づき見直しをもった係活動、当番活動、委員会活動、クラブ活動、代表委員会、行事の充実を図り、発達の段階に応じた自主的・実践的な活動を工夫する。 □健康・安全（命の教育、食事、体力、健康管理、交通安全、防災意識）と日常生活を結び付け、自分の成長や安全、よりよい生活のために自発的、主体的に実行しようとする自己指導能力を育成する。 □一人一人異なる児童の状況を生かし合い、寛容性、包摂性を育む。
<p>笑顔あふれる学校～優しい子～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の児童の居場所づくりに努める。互いの違いを認め合い、尊重し、助け合える関係づくりに努める。 ○不登校・登校しぶり、いじめの未然防止に向けて効果測定や共生＊共育、学校生活アンケート等の有効活用を図る。 ○人権尊重教育、道徳科・特別活動と学校生活との関連を図り、道徳的実践力を高める。また、自分の成長を振り返ることを通じて、夢や希望をもって学校生活を送ることができるようにする。 	<p>安全・安心で自己発揮ができる人間関係づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> □不登校や登校しぶりの未然防止、早期発見に努め、別室等を有効活用しながら個々の児童の状況に応じた対応や取組を迅速に行う。個別最適な学習環境の創出を図る。 □学年単位での児童支援体制の充実を図る。短期目標を明確にしてケース会議を実施する。 □児童の人間関係づくりに努め、子ども同士がよりよい人間関係を構築できる力を育む。 □効果測定や共生＊共育を活用し、学級経営の充実を図る。児童会を通じた児童の発想を生かしながら、いじめ防止月間・児童指導見直し強化月間・人権月間等の効果的な取組を年間を通して見直しをもって行う。 □学校生活アンケート等をもとに、悩みや困りごとを相談する機会を意図的に設定する。 □生活目標、保護者、地域の人・もの・こと等を活用し、道徳の授業を充実させるとともに、道徳で学んだことを学校生活で発揮することに努め、相手意識をもった道徳的実践力の向上を図る。また、キャリアパスポートを活用し、子どもの成長を家庭と共有する。朝会や集会を活用し、学校全体で取組の共有を図る。 □全体計画と各教科等との関連を明確化し、日常の授業を通じた人権尊重教育、キャリア在り方生き方教育の実現を目指す。
<p>信頼される学校 保護者・地域の参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校の取組を効果的に発信し、保護者や地域の学校運営への理解と協力を仰ぐ。 ○学校運営協議会を発足し、地域協力者等の意見を学校運営に生かす。 ○実効性のある学校評価を工夫し、外部からの意見を学校運営の改善に効果的に活用する。 ○外部の専門家等を活用して、求められる教育を工夫する。 	<p>大人も子どもと一緒に学び、成長する 保護者・地域が参画する学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> □学校の取組を保護者や地域に積極的に発信し、理解と協力を求め懇談会等への参加を促す。情報発信の手段として学校HP、学校だより、学年だより、学校公開、行事を有効に活用できるようにする。 □学校運営協議会の活動を保護者や地域に周知し、学校運営に対する参画意識を高める。 □学校運営方針と校務分掌の関連を明確にし、保護者や地域との協働を意識した学校評価を工夫する。 □求められる教育の方向性を踏まえ、外部の専門家や講師、保護者ボランティアとの積極的な連携を図る。
<p>教職員の資質・能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育公務員としての自覚を高め、働きがいのある職場環境の創出に努める。 ○学校運営方針と学年・学級経営、自己目標との関連を図る。 ○学ぶ機会を的確に捉えて自己研鑽を図る。また、必然性を共有できる職員研修を主体的に企画・実施する。 	<p>自己研鑽を図り、学び合う教職員風土の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> □児童理解の感度、人権意識を高め、不登校、いじめの未然防止、早期発見に努め、児童の範となる言動・行動、児童に信頼される言動・行動に一層努める。授業改善、学年・学級経営、学校運営の充実を通して同僚性を高め、学び合う職員集団としての協働体制の確立を目指す。 □学校運営方針を踏まえた学年・学級目標、グループ目標、個人目標を具体的に設定する。 □必然性のある研修を主体的に計画、実施できる人的・時間的・物的環境を整え、蓄積する。
<p>探究的・創造的な学校組織の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ○目的に向かって方法を創出できる、挑戦できる組織づくりを目指す。 ○働き方改革・仕事の進め方改革の方向性を踏まえ、効率的な会議、事務処理の在り方・職場環境等を検討する。 ○全教職員で学校の児童全員の安全を守り、教育活動に関わってこうとする体制づくりを推進する。 	<p>機動的な組織づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> □目標をもって役割を遂行し、一人一人が学校運営に参画しているという意識を高める。また、前例に捉われずに、対話を通して目的に応じた方法や内容を創意・工夫する。 □話し合いの目的を明確にして、教職員の対話、議論するスキルを高める。 □時間外・在宅時間の短縮を目指し、一人一人が働き方改革の意識をもって業務改善に努める。 □時差勤務等を活用しながら、一人一人がワークライフバランスを大切にできる。 □積極的な交換授業等指導体制の工夫・改善により、学校・学年・学級経営の充実を図る。 □それぞれの職種としての立場から教育活動を考え、役割を果たす。